アフリカの手話のルーツを訪ねて

亀井 伸孝（かめい のぶたか）

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所研究員

国際的事業の拠点

「ついにたどり着いた…」

二〇〇六年八月、西アフリカのナイジェリア、イバダン市にある「ろう者キリスト教センター」を訪れたときのわたしは、あたかも聖地に到着した巡礼者のような気持ちになっていた。アフリカの手話の分布図を塗り替えた、ろう者たち（耳が聞こえない人びと）による巨大事業の拠点。そしてアフリカの多くの手話言語のルーツ。それが、かつてこの小さな敷地のなかにあったのだ。

手話は、世界各地のろう者たちのあいだで生み出され、そのなかで世代をこえて伝承されている視覚的なことばである。音声言語が各地でさまざまに異なるように、手話も各地で異なっている。つまり、耳が聞こえる人たちのおよび知らない多言語世界が、ろう者たちのあいだに広がっているのである。

アフリカの手話の調査に着手したわたしは、やがて各国の手話がきわめて似かよっているという事実に気付いた。その背景には、ろう者たちが自ら手話で聞こえない子どもたちを教える学校を設立していった、巨大な国際的ろう教育事業があったこともわかってきた。その拠点が、どうやらナイジェリアにあったらしいということも。

アフリカろう教育の父

アフリカの手話の歴史のキーパーソンは、アンドリュー・フォスター（一九二五～一九八七）である。アメリカ生まれの黒人ろう者で、アフリカで広くろう教育を普及させることに貢献し、「アフリカろう教育の父」とよばれ尊敬されている。フォスターはナイジェリアに事業の拠点を構え、アフリカ一三ヵ国に三一校のろう学校を設立し、二三ヵ国の教員を育成するという巨大事業のリーダーとして活躍した。没後の今も、アフリカ各地のろう者たちのあいだで、手話の物語として語り継がれるヒーローとなっている。

フォスターがナイジェリアのセンターで開催した教員研修が、多くのアフリカ人ろう者の人材を輩出した。ここで研修を受けた人たちが、やがてアフリカ各国に帰ってろう学校の教師となり、手話とろう教育を普及させ、今日のアフリカの手話言語分布の原型を作った。すべてのルーツは、イバダンにある。一〇年におよぶアフリカ各国でのフィールドワークの末に、わたしがその「発祥の地」を初めて訪れたのが、冒頭のシーンである。

アフリカ大陸の面積の半分くらいの手話の言語分布を変えた、ろう者の活動の一大拠点。その存在感のわりに、実際のセンターは広大なものではなく、せいぜい五〇メートル四方程度の小さなものだった。かつてここには、ろう教育事業団体の事務所、フォスターの住居、ろう者の教会、アフリカ各国から集まってくる研修生たちの滞在施設などがあった。

書斎に収蔵されている膨大な文書や写真。むかしを知る高齢のろう者たちの貴重な手話語りの数かず。そして何より、アフリカの手話のルーツを自ら訪れて確かめたという達成感。センターでの一ヵ月の住み込み調査は、わたしにとってまさしく実りあるフィールドワークだった。フォスターがいた往時と変わらず、今もろう者たちが運営の主導権を握り、業務と生活がすべて手話で営まれているセンターの現状にも、どこか納得できるものがあった。

思い出より資源利用

ただし、アフリカ史の重みを念頭に感銘にふけっているわたしと、実際にセンターに寝起きして業務に携わるろう者のスタッフたちとのあいだに、奇妙なずれを感じたのもまた事実だった。このセンターを運営する今の所長（ナイジェリア人ろう者）は、これを改築して学校事業を拡大し、いずれは移転して事業規模を大きくしたいと語る。あの英雄フォスターが使っていた執務室は、今はろう学校寄宿舎の舎監の若者たちが雑居する部屋となっており、そこを訪れてみたら、若いろう者たちがSONYのプレイステーションでゲームに興じていた。兵（つわもの）どもが夢の跡。「手話の聖地」を訪れたつもりのフィールドワーカーのロマンチックな期待は、みもふたもない現実によってみごとにはぐらかされた。

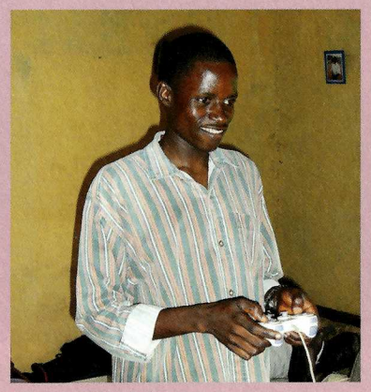
外部から来た調査者であるわたしは、「アフリカの手話のルーツとして、このセンターをまるごと記念館にして原形のまま保存したい」などということを思いつく。しかし、今日のナイジェリア社会におけるマイノリティとして、私立学校の運営などに奮闘しているろう者たちにとっては、歴史よりも資源、思い出よりも土地と建物なのである。

ナイジェリアろう者たちのたくましい資源利用の姿に出会い、歴史への思いだけでなくフィールドでこうした現実につきあうことも研究者の大事な仕事なのだろうと考えた。外部者の記憶によって創られるロマンもおもしろいが、フィールドのただなかでのあけすけな現実を学ぶこともおもしろい。どちらが真実かという二者択一でもないのだろう。フォスターらの偉業を遺産として引き継ぎつつ、現実を切り開いているろう者たちに出会えたこと自体が、調査者としてこのうえもない幸福なことだったと思っている。

教員研修に参加したアフリカ諸国の若者たち。
前列左から3人目がアンドリュー・フォスター
（提供＝ろう者のためのキリスト教ミッション）

現在のセンターは私立ろう学校を運営する
（提供＝ナイジェリアろう者のためのキリスト教ミッション）

現在のろう者キリスト教センター


フォスターの執務室では
若者がゲームに興じていた

センターでは業務も生活も
手話で営まれている